

## 「3年生に向けての思い」(文責:松清)

私達は、現在2年生で、あと少しで3年生に進級します。3年生に向けて色々なことを考えると、不安なことが多くあります。それは、普段の勉強や医療的ケアの実技、介護実習での介護過程展開、介護福祉士の国家資格の受験、進路選択等についてです。

医療的ケアでは、動作を失敗してしまうと、利用者の命に関わる事態に繋がってしまいます。利用者の方やそのご家族に了承の許可を頂き、医師や看護師と協力しながら行うため、とても緊張感や集中力が必要になります。介護過程では、一人の利用者の方を担当して、その方に関する情報を収集し、その方に合った支援を考え実際に行います。介護福祉士国家資格の受験では、今後の就職や履歴書にも書きことができ、資格を持っているとこれから先の就職や進学にも役立っていくので有利になるため、資格は持っておく必要があると考えました。そのために2年生の今のうちに、3年生になった時のことを考えて行動するようにしたいと思います。



## 「介護福祉士国家試験に向けて」(文責:下前)

1月16日に3年生の介護福祉士国家試験の壮行会が行われました。壮行会に参加し、先輩方一人一人の国家試験に向けての決意の言葉などを聞いて、とても不安や緊張感が伝わってきました。また、先生方から3年生や1・2年生に向けてのお話を聞いて、私も先輩方全員で合格を勝ち取ってほしいと思いました。

これまでの壮行会では先輩方への応援やエールなどを行ってきましたが次はいよいよ私たちの番で国家試験まで約一年間しかないことを改めて実感しました。そして、今の三年生の先輩方のように後輩をまとめられるような存在になりたいと思いました。壮行会の最後には、今まで支えて下さった先輩方に向けて1・2年生からエールと共にプレゼントを渡しました。

先輩を見習って今のうちから国家試験に向けて日々の授業を大切に、しっかりと学習に励んでいきたいと思いました。



### 【編集後記】

元旦の北陸を中心に発生した能登半島地震に驚きと同時に被災地の方の生活が瞬時に壊されてしまったことに心を痛めています。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。発災直後は医療的な支援が必要不可欠ですが、現在は生活再建に向けたフェーズに移行しているようです。「福祉」は日常の生活の中で紡がれていくものです。自然災害によって、その生活が分断された時、私たちはどのようにその生活を取り戻す事ができるでしょうか。被災地の老人ホーム等では限界ギリギリのところまで職員の方が利用者の方の生活を守っていらっしゃるようです。人口減少社会が進行している今、「共生社会」や「地域包括ケアシステム」が福祉のキーワードになっています。地域の課題は地域住民が主人公になっていく解決していく必要があります。私たち教員が行う「福祉教育」が自然災害等の生活を揺るがせる事態に対して何ができるだろうか。このことについて能登半島の皆さんに心を寄せながら、生徒と共に考え続けようと思っています。能登半島の皆さんの生活が一日も早く復興し、何気ない生活の幸せを取り戻す事ができますことをお祈りいたします。

(学級担任 岩川亮太)